

いちのへ御所野縄文学の取組について

～将来を担う人材の育成を目指して～

一戸町教育委員会（岩手県）

1. はじめに

一戸町は岩手県の内陸北部に位置する人口約 10,800 人の町で、小学校 5 校と中学校 2 校に児童生徒約 350 名が在籍している。

当町には全国で初めて「土屋根住居」の存在が確認された国指定史跡である「御所野遺跡」があり、令和元年 7 月に、世界文化遺産登録に向けたユネスコへの推薦候補に「北海道・北日本の縄文遺跡群」として選定された。そして、令和 3 年 7 月、第 44 回世界遺産委員会において、岩手県一戸町の国指定史跡「御所野遺跡」を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、正式に世界遺産登録が決定した。

学校教育においては平成 28 年度から「いちのへ御所野縄文学事業」を立ち上げ、郷土や地域について探究的に学ぶことを通して、ふるさとに誇りをもち、主体的に生きる子どもの育成をねらいとした教育活動の在り方について検討を進めている。

2. 教育目標

- 1 生産意欲に燃え明るい町づくりに励む 民主的な人
- 2 広い視野にたち高い文化を創造する 科学的な人
- 3 自他を敬愛し豊かな情操を培う 協調的な人
- 4 誠意と粘り強さをもちすすんで理想を追求する 行動的な人
- 5 衛生思想を高めたくましい体をつくる 健康的な人

3. 教育委員会・学校での取組

(1) いちのへ御所野縄文学について

令和 3 年度からは、いちのへ御所野縄文学を大きく二つの柱の学習として整理し、学校の実態により、「総合的な学習の時間」や「学校行事」等において実践するものとした。

一つ目の柱は、一戸町の宝である御所野縄文への知識を深める「ふるさと学習」である。さまざまな体験を基本に据えて、発展的に地域の宝に目を向け、その魅力に誇りをもち、自信をもって自分の言葉で発信できる子どもの育成を目指す。

二つ目の柱は、御所野縄文文化の普遍的価値から一戸町の持続可能な開発を考えるための学習である。環境、防災や復興、社会や職業、福祉などを視点に、他者とかわりながらよりよく生きること、未来につながる具体的な行動を主体的に考え、実践する子どもの育成を目指す。



(2) いちのへ御所野縄文学推進委員会

毎年、各校の担当者が集まり、育成を目指す資質・能力やその具現化のための授業の在り方等について学び合う機会として、研修会を行っている。今年度は、一戸町立奥中山中学校を会場に、「レタスの授業」を実施し、その様子を参観した推進委員で協議した。本町の農林課と連携し、レタスの収穫から流通までを体験を通して学ぶことができ、学習後には、生徒が意欲的に地元の持続可能な発展の在り方を考えることができた。



【朝採れレタスを盛岡市で無料配付しました。】

(3) 御所野子どもガイド活動

一戸南小学校で実践している「御所野子どもガイド」は、御所野遺跡の特徴と、自分たちや先輩たちが調査した情報を広く伝えることを目標としている。現在の6年生で9代目となる。ガイド原稿は修正しながら引き継ぎ、自分たちらしさを出すために、「総合的な学習の時間」に調査、実験したことを盛り込んでいる。また、相手意識を大切にし、会話を盛り上げる等工夫しながらガイド活動を行っている。



【御所野縄文遺跡の土屋根住居】

(4) いちのへ御所野縄文学実践交流会

2月には、小学校5校が集い、各校の取組を互いに発表し合う実践交流会を行っている。今年度は感染症の影響で、発表会を実施できなかったが、発表の様子を動画にまとめ各校で視聴を行い、各地区にある「地域の宝」を知ることができた。また、それを工夫して伝えようする互い発表の良さを認め合うことができた。



【小鳥谷小学校の子どもたちの追究活動の様子】

4. おわりに

いちのへ御所野縄文学は、今と昔、地域と子ども、教師と子ども、そして子ども同士をつなぐ、一戸の教育にとって欠かせないものとなっている。大人になっても一戸のよさを語れる人になってほしいという願いをもちながら、この取組を発展させていきたい。